

1. 件名：多核種除去設備 高性能容器（タイプ1）の使用に関する面談
2. 日時：令和4年11月24日（木）11時00分～11時35分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

正岡企画調査官、新井安全審査官、塩唐松係長

検査グループ 専門検査部門

山元首席原子力専門検査官

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当2名

#### 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）から、資料に基づき、多核種除去設備における高性能容器（以下「HIC」という。）の使用について以下の説明がなされた。
  - HICにはタイプ1と2の2種類があり、現在は優先的にタイプ2を使用していること。
  - 今回、過去に製作し保有しているタイプ1の36基についても使用可能な状態としたいこと。
  - タイプ1のHICの取扱方法（つり上げ高さ制限等）と保管場所は実施計画に記載されている範囲に留めること。
- 原子力規制庁は、上記説明内容について事実関係を確認するとともに、以下のコメントを伝えた。
  - タイプ1のHICについて、実施計画に記載された範囲内で使用する場合は改めて審査する必要はないこと
  - タイプ1のHICの使用前検査の要否について、過去の実施計画の「確認事項」の記載経緯等も整理した上で東京電力としての考え方を示すこと
- 東京電力から、上記コメントについて了解した旨の回答があった。

#### 6. その他

資料：

- 多核種除去設備 高性能容器（タイプ1）の使用について

以上